

## 第32回夏季大学実施報告

### はじめに

1998年8月5日～8月7日の3日間、東京大学山上手会館で第32回夏季大学を実施し、99名の参加者があった。不順な天候の夏で期間中に雷雨もあったが、講演、見学、懇親会というメニューを無事終了することができた。お世話になった方々に感謝したい。以下、アンケートの集計結果を中心に概要を報告する。

### テーマと講義

今回は“新しい気象学「気象を測る：気象観測の発展と展望」”というテーマで開催し、6名の講師に以下の題目で講演いただいた。

8月5日（水）：

「地上・高層の気象観測（鈴木宣直氏）」

「気象衛星（隈部良司氏）」

「レーダーとそのデータの利用（鈴木修氏）」

8月6日（木）：

「GPS（全球測位システム）を利用した大気観測（萬納寺信崇氏）」

「航空機観測と航空気象（吉野勝美氏）」

「最近の気象観測をめぐる情勢（上窪哲郎氏）」

### アンケート結果

アンケートには82名（83%）の方から回答が寄せられた。概要（無回答を除く）は以下の通り。

**年齢** 10代1名、20代12名、30代21名、40代26名、50代10名、60代以上11名（最高齢82歳）

**職業等** 教職員24名、学生6名、気象関連業務16名、その他38名（会社員10名を含む）

**参加目的** 教材研究16名、業務上の参考24名、教養または趣味50名、気象予報士試験の準備13名、その他2名

**参加回数** 初めて36名、2回目5名、3回目11名、4～5回15名、6～10回13名、その他2名

**開講を知った手段** 「天気」43名、「気象」34名、「地学教育」2名、「気象友の会会報」5名、その他10名

**受講料の評価** 高い11名、適当66名、安い5名

**気象学会員で** ある42名、ない40名

昨年（テーマは「大気汚染と酸性雨」）と比較すると、教養もしくは趣味を目的とした参加者と予報士試験の準備を目的とした参加者が共に増えて一昨年とほぼ同じ割合になったことと、

気象学会員の割合が昨年より増えたことが特徴である。

**意見や感想**では、「これまで断片的だった気象観測・測器について最新の知識が得られて理解を深めることができた」として、全体としてレベルは適当で内容が充実していたと考えている人が多い。一方で、より突っ込んだ内容を期待する意見や、講師のプレゼンテーション技術や質問時間・時間割に関する注文もあった。

会場・施設や運営については概ね好感を持たれたようであるが、個々には様々な（対立するものも含む）希望がある。

**今後の夏季大学に希望するテーマ**としては、「天気予報」を挙げた人が13人で最も多く、次いで「局地・メソ気象」の9人、「気象データの利用法」と「環境と人間への影響」の8人、「数値予報」「台風」「地域に特徴的な気象」の7人という順になっている。

### 見学

第3日に、2つのコースに分かれて、いずれも気象庁の機関である、つくば市の気象研究所と高層気象台（Aコース）、清瀬市の気象衛星センターと情報システム課システム運用室（Bコース）の見学を実施した。

### 懇親会

受講者で懇親会に参加した人は30人で昨年並みだった。講師の参加も多く、自己紹介が主だが、様々な分野で活躍している人たちの生の声を聞くことができる貴重な機会であり、有意義だったとの意見が大多数を占めている。

### 運営上の反省点

過去2回と同様に、良い設備の会場を安く借りられたことが、好評かつ赤字のない開催ができた大きな要因であろう。

スペースなど受け入れ施設の制約により、見学者の人数に上限を設けたため、希望したのに見学に参加できなかった受講者があった。今回はできるだけ希望者全員が参加できるように工夫をする必要がある。

テキストはテーマの性質のために写真が多くなり、また、初めてカラーページや著者のプロフィール紹介を入れるなどの工夫を行った。このため製作費が若干（約2割）高くなったが、販売も順調で残部は少ない。

### 全体の印象と今後に向けて

しばらく取り上げていなかった「観測」をテーマとして選び、新しい話題を含む充実した内容の講演をいただいたことが全体として高い評価を得た最も大きな理由であろうと考えている。

気象予報士やそれを目指す人達などを対象とした気象や予報技術に関する色々な講習会が開かれている。委員会としては、夏季大学では、今後もテーマの偏り

が生じないよう配慮しつつ境界領域を含む様々な分野の話題を幅広く取り上げていくつもりである。このことが夏季大学の特長を保ち学会の普及活動としての独自性を発揮できる道と考えている。この点も含めて、夏季大学について意見のある方は、随時、委員会にお知らせ願いたい。

(教育と普及委員会)



## 教官公募

北海道大学大学院地球環境科学研究科大気海洋圏環境科学専攻では、下記の要領で教官を公募します。

### 記

公募人員：助教授1名

所 属：大気海洋圏環境科学専攻大循環力学講座

専門分野：大気物理学を中心として、大気海洋相互作用や物質循環など、気候変動の物理学と関連した分野を含む。グローバルな観点から大気海洋圏の地球環境科学に関する教育・研究を進めていく意欲のある方が望まれます。なお、本研究科の大学院生の教育・研究指導のみならず、学部的一般教育にも参加して頂く可能性があります。

提出書類：(1)履歴書

(2)研究業績リスト(原著論文、総説、その他。原著論文に関してはレフリー制のものと同様でないものを分けてください。)

(3)主要論文の別刷り、またはコピー(5編程度)

(4)これまでの研究の概要と今後の抱負

(A4用紙2枚程度)

(5)所見を伺うことのできる方2名の氏名と連絡先

応募期限：平成11年1月18日(必着)

着任期限：平成11年4月1日以降できるだけ早い時期書類の提出先：

〒060-0810 札幌市北区北10条西5丁目

北海道大学大学院地球環境科学研究科大気海洋圏環境科学専攻

専攻長 角皆静男(宛)

(応募書類には「助教授応募」と朱書きし、郵送の場合、簡易書留で送ること。なお、応募書類は返却しない。)

問い合わせ先：

塩谷雅人 Tel. : 011-706-2366

e-mail : shiotani@ees.hokudai.ac.jp

久保川厚 Tel. : 011-706-2364

e-mail : kubok@ees.hokudai.ac.jp

Fax. : 011-726-6234 (専攻秘書室)

当専攻のホームページ

<http://www.oes.hokudai.ac.jp/>